

維新府・市政がIR基本構想案

世界最大級カジノ狙う

大阪府と大阪市は12日、カジノを核とした統合型リゾート(IR)を大阪湾の埋め立て地・夢洲(ゆめしま)に誘致するための「大阪IR基本構想案」を発表しました。カジノの売り上げ額や投資規模からも「世界最大級」のカジノを狙う内容となっています。

カジノ売り上げ 3800億円に

維新の府・市政は大阪万博が開かれる前年の2024年までに夢洲でのIR開業を狙っています。「世界最高水準の成長型IR」をうたい、万博開催予定地に

隣接する敷地(約60万平方メートル)に、カジノ、国際会議場、展示場、3千室のホテルなどを併設した施設(総延べ床面積100万平方メートル)をつくるというものです。IR全体の年間売上額4800億円のうち、カジノの売り上げ(客が負けた額)は8割(3800億円)を占めていきます。松井一郎知事らカジノ推進派は「カジノエリアは3%に過ぎない」と言ってきましたが、カジノがIRの中心であることが浮き彫りになっていきます。

み、カジノの売り上げのうち外国人は2200億円、日本人は1600億円とされています。

カジノの年間売り上げ(2017年)は、米資本のラスベガス・サンズ社がシンガポールで運営する「マリーナ・ベイ・サンズ」の2849億円を約1千億円上回り、世界最大のギャンブラー・マカオ(マカオ)の5819億円に次ぐもの。事業者の投資規模も9300億円と、「マリーナ・ベイ・サンズ」の4870億円を大きく上回ります。